

# 令和 4 年度 施策評価表

## 第 2 章 『子どもが大切にされるまち』

まちづくりの目標	子どもたちが、地域の「絆」の中でしっかりと学び、健やかに育っていけるよう、家庭、地域、学校などがそれぞれの役割を果たし、一体となって子どもが大切にされるまちをめざします。
分野別計画・指針	第2期所沢市子ども・子育て支援事業計画(ところっこすくすくサポートプラン)、第5次所沢市障害者支援計画(障害児福祉計画)、所沢市放課後子ども健全育成基本方針、第2次所沢市教育振興基本計画、第3次所沢市子どもの読書活動推進計画、所沢市いじめ防止基本方針

第1節	子ども支援
関係所属	こども支援課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和3年度所沢市市民意識調査」の結果) 回答数:2,437人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「子ども支援」 所沢市は子育て世帯への支援や相談窓口が充実している	508	20.8%	484	19.9%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R3年度目標値	R3年度実績	達成状況	R6年度目標値
	こども支援センター(子育て支援)の利用者満足度	%	98.35	100	99.28	×	100

基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R3年度目標値	R3年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-1-1	子どもの育成支援の充実	こども支援センター(子育て支援)の利用者数	人	85,856	60,000	41,907	×	60,000
2-1-2	子育て家庭への支援の充実	ところっこ子育てサポート事業相談件数(基本型・特定型)	件	872	900	1,071		900
2-1-3	地域における子育て支援の充実	ファミリーサポート事業の年間利用件数	件	12,155	17,000	11,348	×	17,000

**節の基本方針への取り組み状況**

**前年度の取り組み状況に対する振り返り**  
 こども支援センターの「子育て支援エリア」では、併設している「発達支援エリア」等と連携し、利用者が専門職に気軽に相談できる行事や講座開催を実施し支援した。  
 ところっこ子育てサポート事業では、関係機関と連携し、相談者に寄り添った子育てに関する相談や情報提供などの支援を行った。  
 ファミリーサポート事業では、援助会員及び利用会員を増やすため事業の周知に努め、地域における子育て支援の仕組みとして利用された。

**前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析**  
 こども支援センターの利用者満足度については不満・やや不満と回答した方はいなかったが、どちらでもないと回答した方がいたためと考えられる。  
 こども支援センターの利用者数は、新型コロナウイルス感染症拡大防止における一時閉鎖や事業内容の縮小及び利用者の自粛による影響と考えられる。  
 ファミリーサポート事業の利用件数は、新型コロナウイルス感染症の流行下で家庭保育の協力を促したことや、利用者の自粛によるものと考えられる。

**今後の方向性**

**「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容**  
 ところっこ子育てサポート事業については、子育て世代包括支援センターからとも連携し、妊娠期から子育て期まで切れ目のない支援の充実を図る。  
 ファミリーサポート事業の利用会員が増加しニーズが高まっていることから、様々な機会を捉えて援助会員の確保に努めていく。

**前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容**  
 こども支援センターの利用者満足度については、更なる満足度の向上を目指し、支援の充実を図る。  
 こども支援センターの利用者数については、コロナ感染状況に応じた工夫を凝らし、事業の充実を図る。  
 ○ファミリーサポート事業は新型コロナウイルス感染症の影響によるものが大きいですが、必要なときに利用しやすい制度となるよう一層の周知を図る。

SDGsへの貢献			
	1 貧困をなくそう	レ	10 人や国の不平等をなくそう
	2 飢餓をゼロに	レ	11 住み続けられるまちづくりを
レ	3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
	4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
	5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
	6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公正をすべての人に
	8 働きがいも経済成長も		17 パートナーシップで目標を達成しよう
	9 産業と技術革新の基盤を作ろう		
評価日	R4.7.28	記入者職氏名	こども未来部次長 市来 広美

第2節	子ども福祉
関係所属	こども福祉課、こども支援課

施策に対する市民満足度・要望度 (「令和3年度所沢市市民意識調査」の結果) 回答数:2,437人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「子ども福祉」 所沢市は子どもの発達や虐待防止の相談・支援体制が整備されている	367	15.1%	361	14.8%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R3年度目標値	R3年度実績	達成状況	R6年度目標値
	こども支援センター(発達支援)の利用者満足度	%	93	100	94.8	×	100

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R3年度目標値	R3年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-2-1	障害児支援の充実	こども支援センター(発達支援)の利用者数	人	19,517	22,000	19,667	×	22,300
2-2-2	養育環境に配慮した支援の充実	児童家庭相談の件数	件	844	900	889	×	900

**節の基本方針への取り組み状況**

**前年度の取り組み状況に対する振り返り**  
 こども支援センター(発達支援)では、心理士、言語聴覚士、作業療法士の専門職による相談支援、地域支援、障害児通所支援を柱とした取り組みを行った。相談支援では併設する子育て支援エリアや保健センターなど関係機関と連携し、延べ4,287件の相談を行った。地域支援では幼稚園・保育園への巡回相談、支援者や当事者の家族向けのオンライン研修会等を行った。障害児通所支援では児童福祉法に基く児童発達支援・保育所等訪問支援を行うとともに、保護者の同意のもと就学時に就学先へ支援記録の提供を行った。  
 児童家庭相談においては、子どもやその家庭に関する様々な相談に対応し、必要に応じて継続的な支援を行った。

**前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析**  
 ○「こども支援センター(発達支援)の利用者満足度」については、「信頼できる担当者と出会えた」「子どもの発達の様子が、発達検査の実施結果や丁寧な説明等で具体的に分かる」といった評価を多くいただき前年度の満足度93.5%を上回ったものの、「予約の日程が取りづらい事もある」など、相談支援の利用者の増加により相談間隔等のご希望に添えない状況が続いており目標未達成となったものである。  
 児童家庭相談においては、目標値には達していないが、令和2年度と比較し140件増加しており、相談窓口は周知されていると考えられる。

**今後の方向性**

**「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容**  
 こども支援センター(発達支援)の機能がより発揮されるよう、事業内容の見直しを適宜行い改善を図っていく。  
 障害児支援の充実については、医療的ケア児や重症心身障害児の支援体制を整えていく。  
 ○教育と福祉の連携を進める等、障害児支援の担い手の相互理解を深めていく。  
 児童家庭相談においては、引き続き、電話や窓口、メールで子どもに関する様々な相談に対応し、支援の充実を図る。

**前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容**  
 評価指標「こども支援センター(発達支援)の利用者満足度」については、引き続き職員研修などにより支援の質を向上させるとともに、より円滑に相談支援に繋げることができるよう関係機関と協議していく。  
 事業目標「こども支援センターの利用者数」については、施設での新型コロナウイルス感染症対策を引き続き行い、必要に応じWebを活用するなど、必要な支援を届けられるよう事業を実施していく。  
 ○児童家庭相談においては、あらゆる機会を通じて周知を行い、相談しやすい環境づくりに努める。

SDGsへの貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R4.7.28	記入者職氏名	こども未来部次長 市来 広美
-----	---------	--------	----------------

第3節	子育て環境
関係所属	こども政策課、保育幼稚園課、青少年課

施策に対する市民満足度・要望度 （「令和3年度所沢市市民意識調査」の結果） 回答数：2,437人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「子育て環境」 幼稚園・保育園などや放課後児童クラブが充実している	604	24.8%	464	19.0%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R3年度目標値	R3年度実績	達成状況	R6年度目標値
	就学前児童の保育待機児童数	人	26	0	3	×	0

事業目標の達成状況							
基本方針	事業目標	単位	(H29)現状値	R3年度目標値	R3年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-3-1 幼児教育の支援	幼稚園型一時預かり事業の利用者数	人	104,651	105,000	135,763		105,000
2-3-2 就学前児童の保育の充実	就学前児童の保育施設の利用者数	人	5,572	6,000	6,006		6,000
2-3-3 放課後児童クラブの充実	放課後児童クラブの利用者数	人	2,250	2,458	2,619		2,458

**節の基本方針への取り組み状況**

**前年度の取り組み状況に対する振り返り**  
 保育所の新設や、既存の保育所、認定こども園、地域型保育事業の定員拡大により保育の受入枠を増加させた。  
 保育を必要とする児童を幼稚園で預かってもらうため、幼稚園型一時預かり事業を実施した。この中で、国・県の実態改正に合わせ、特別な支援を要する児童に対する単価を創設し、障害児の預かり保育利用に伴う事業者の負担軽減を拡充した。  
 6児童クラブ(北野、若松、牛沼、泉、安松、宮前)において学校施設を活用した定員拡大を図り、合計228人分の新たな定員の確保を図った。

**前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析**  
 ○1歳児、2歳児の保育需要が多かったことが影響している。

**今後の方向性**

**「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容**  
 第2期子ども・子育て支援事業計画に基づき、保育定員の確保を図る。  
 幼稚園型一時預かり事業に移行していない事業者に対し意向確認を行い、希望する事業者の意向を促す。(実績値には私学助成による預かり保育実施件数を含む。)  
 第2期子ども・子育て支援事業計画に基づき、保育定員の確保を図る。  
 放課後児童クラブの狭小化や大規模化の解消に向け、施設整備や学校施設の活用により定員の拡大を図るとともに、令和4年2月から実施している処遇改善事業により、放課後児童支援員等の人材確保につなげるとともに、研修やモニタリングを通して、放課後児童クラブで提供するサービスの向上を図る。R6年度目標値については、R3年度の時点で達成しているが、一部クラブで保留児童が存在するため、第2期所沢市子ども・子育て支援事業計画の中間年であるR4年度の見直しに向けて、放課後児童対策協議会で審議を行う。

**前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容**  
 ○保育需要の適正な把握に更に努め、必要な定員の確保を図っていく。

SDGsへの貢献	
1 貧困をなくそう	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	11 住み続けられるまちづくりを
3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナリシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R4.7.28	記入者職氏名	こども未来部次長 市来 広美
-----	---------	--------	----------------

第4節	青少年健全育成
関係所属	青少年課、社会教育課

施策に対する市民満足度・要望度 （「令和3年度所沢市市民意識調査」の結果） 回答数：2,437人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「青少年健全育成」 所沢市は青少年が健全に育つ環境が整備されている	409	16.8%	199	8.2%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R3年度目標値	R3年度実績	達成状況	R6年度目標値
	青少年健全育成に関する施策の満足度	%	28.0	29.5	16.8	×	31.0

事業目標の達成状況							
基本方針	事業目標	単位	(H29)現状値	R3年度目標値	R3年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-4-1 家庭・地域・学校みんなで青少年の健全育成	「三つ葉の提言」の配布数	件	3,353	3,400	2,442	×	3,500
2-4-2 青少年健全育成の支援	児童館利用者数	千人	364.9	現状値以上	199	×	現状値以上
2-4-3 青少年の教育及び体験活動の充実	所沢こどもルネサンス事業参加率	%	27.0	28.5	20.9	×	30.0

節の基本方針への取り組み状況
<p><b>前年度の取り組み状況に対する振り返り</b> 三つ葉の提言の啓発活動として予定していたキャンペーンが、新型コロナウイルスの影響により実施できず、関係機関や団体を通じた普及活動となったため、配布枚数も減少し、対象者も限定的になってしまった。 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、児童館の一般来館では利用時間や人数の制限を行ったり、イベントの中止や規模の縮小などを行ったため、利用者数が減少してしまった。 ○青少年の様々な体験活動の充実に努めるとともに、活動団体を支援した。令和2年度に引き続き、コロナ禍により中止となった事業はあったが、感染対策を講じながら事業を実施した。</p> <p><b>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析</b> ○新型コロナウイルスの影響により、予定していた啓発活動が出来ず、三つ葉の提言の配布数が減少してしまった。 新型コロナウイルスの影響により、通常の児童館運営が出来ず、利用者数が減少してしまった。 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、中止となった事業が多く、例年よりも事業数が減じたため、目標値が未達成となった。</p>

今後の方向性
<p><b>「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容</b> 「三つ葉の提言」の普及に向けた啓発活動を実施する。 コロナ禍にあっても、感染防止対策を徹底することで、青少年に対する事業を可能な限り開催し、青少年の健全育成の場を確保していく。 学校教育以外の場で、青少年が地域で様々な体験活動に参加し、成長できるよう、今後も体験活動の充実と活動団体の継続的な支援に努める。</p> <p><b>前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容</b> ○三つ葉の提言の普及には、街頭でのキャンペーンによる啓発活動だけでなく、普及方法の充実を図っていく。 今後の児童館運営に関して、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、安心・安全に児童館を利用できるようにしていく。 ○従来の形もしくは実施できる形で感染対策を講じながら工夫して事業を実施していけるように、継続的な団体支援に努める。</p>

SDGsへの貢献	
1 貧困をなくそう	レ 10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに	レ 11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を	12 つくる責任 つかう責任
レ 4 質の高い教育をみんなに	13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう	14 海の豊かさを守ろう
6 安全な水とトイレを世界中に	15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ 16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も	17 パートナーシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう	

評価日	R4.7.28	記入者職氏名	こども未来部次長 市来 広美 教育総務部社会教育担当参事 吉田 謙治
-----	---------	--------	---------------------------------------

第5節	学校教育
関係所属	学校教育課、保健給食課、スポーツ振興課、教育施設課、教育センター、経営企画課

施策に対する市民満足度・要望度 ('令和3年度所沢市市民意識調査'の結果) 回答数:2,437人	満足、まあまあ満足と回答した人数	満足度	力を入れてほしいと回答した人数	要望度
「学校教育」 所沢市の小中学校は学びの環境が整備されている	707	29.0%	403	16.5%

評価指標の達成状況	指標名	単位	(H29)現状値	R3年度目標値	R3年度実績	達成状況	R6年度目標値
	埼玉県学力・学習状況調査における学力レベルの伸び	レベル	2	2	2(R2)		2

事業目標の達成状況								
基本方針		事業目標	単位	(H29)現状値	R3年度目標値	R3年度実績	達成状況	R6年度目標値
2-5-1	確かな学力と自立する力の育成	学力向上推進事業における研究委託校数	校	20	現状維持	21		現状維持
2-5-2	豊かな心の育成	いじめ解消率の小・中の割合	%	51.2	62	73.2		65
2-5-3	地域が信頼する学校づくりの推進	特色ある学校づくり支援事業で活用した地域人材の人数	人	5,603	6,110	4,088	×	6,110
2-5-4	健やかな体の育成	学校給食センターの再整備		調査	検討	契約		運営
2-5-4	健やかな体の育成	学校給食における残食率	%	6.3	7	5.87		7
2-5-4	健やかな体の育成	体力テストにおける上位ランクの生徒の割合(中学校)	%	87.9	88.6	83.6	×	89.2
2-5-5	学校環境整備の推進	学校トイレの洋式化率	%	35	47	52		56
2-5-6	学習環境の整備	市内小中学校における電子黒板の導入割合	%	17	35	20	×	50
2-5-7	教育環境の充実	特色ある私立学校の誘致		推進	推進	推進		推進

### 節の基本方針への取り組み状況

**前年度の取り組み状況に対する振り返り**

○「埼玉県学力・学習状況調査における学力レベルの伸び」について、実績値の根拠となる埼玉県学力・学習状況調査が、令和2年度の新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかったため、前年度と比較できる実績を得られなかった。

○新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、学び創造アクティブPLUS研究委託校においては、可能な形で研究に取り組み、研究の成果を市内の学校で共有した。

○命に係る重大事態の発生を重く受け止め、継続して教職員の研修及び児童の自己肯定感の醸成に最重点を置いて取り組んだ。いじめの防止についても、所沢市いじめ防止基本方針及びいじめ対応マニュアルに則り、早期発見、早期対応、早期解消に努めた。

コロナ禍の影響で、学校での活動が制限されたり、体育授業以外での体力向上の取り組みの減少などにより、令和3年度の数値から生徒の体力低下が見られる。

平成26年度から進めてきたトイレ改修事業について、昨年度をもって校舎1系統目が完了し、令和3年度の目標とした洋式化率を達成することができた。

山口中学校の既存擁壁について、災害防止の観点から安全性を高めるための改修及び補修工事を令和2年度から3年度にかけて実施し、山口中学校既存擁壁改修工事が完成した。

老朽化した校舎等について、修繕及び改修工事を実施し、学校環境の整備を行った。

電子黒板の導入割合について、令和2年度中に、文部科学省のGIGAスクール構想に基づき、児童生徒1人1台の学習者用コンピュータのほか、全ての普通教室及び一部の特別教室に大型提示装置の整備が必要になったため、計画を変更し、電子黒板でなく液晶ディスプレイに替えて整備した。

私立学校の誘致に必要な手続き等について、県をはじめとする関係各所と調整を進めた。

**前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、その理由・分析**

○令和2年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、具体的な地域との連携活動を自粛せざるを得ない状況があった。

新型コロナウイルス感染拡大防止策として、体育、部活動の時間制限や日常的に身体を動かす機会が減少したため、全国的に体力が低下したものである。

○電子黒板の代わりに液晶ディスプレイを全ての普通教室及び一部の特別教室に整備したため、評価指標としては未達成であるが、大型提示装置の設置率は100%である。

今後の方向性

「基本方針」に基づいて今後優先して取り組むべき内容

引き続き、子供たちの豊かな心の育成・自己肯定感の醸成に重点を置いて、子ども理解・心の育成に係る教職員研修の充実を図る。未だ新型コロナウイルス感染症対策の制限はあるものの、令和3年度から本格的に展開し始めた学力向上推進事業「学び創造アクティブPLUS」においても取組の柱に据え、全ての教育活動を通して、子供の自己肯定感の醸成に努めていく。

○学力向上推進事業「学び創造アクティブPLUS」では、心のエネルギープロジェクト、所沢市GIGAスクール構想、特色ある学校づくり等の事業とも関連付け、創意工夫して、引き続き、学校・家庭・地域が一体となって、より一層、主体的・対話的で深い学びを創造していく。

○令和2年度からあらためて実施した埼玉県学力・学習状況調査における「学力レベルの伸び」について、継続して学力レベルを2ずつ伸ばしているように学校を支援する。

コロナ禍の影響で、運動する機会が減り、児童生徒の体力が低下している。児童生徒体力向上委員会と連携し、児童生徒一人一人の課題に応じた取り組みにより、総合的な体力向上を目指す。

令和3年度のトイレ改修工事をもって、校舎1系統目のトイレ改修が完了したが、児童生徒へのアンケート調査において、新しくなったトイレの満足度が高いこと、また、改修により学校環境の改善が図られることから、引き続き、校舎2系統目のトイレ改修に着手する。

また、屋内運動場のトイレについても、児童生徒のための環境整備に加え、災害時の避難所としての役割や市民への開放など、利用者の多様化に伴い、令和4年度から屋内運動場トイレ改修工事に着手する。

山口中学校の既存擁壁について、災害防止の観点から安全性を高めるための改修及び補修工事を令和2年度から3年度にかけて実施し、計画どおり山口中学校既存擁壁改修工事を完成させた。令和4年度は、工事による近隣建物への影響調査を行い、山口中学校既存擁壁改修事業を完了させる。

私立学校の開設に必要な手続き等について、県をはじめとする関係各所と調整を進める。

前年度の評価指標・事業目標が未達成の場合、目標達成に向けて今後実施していく内容

○引き続き、いじめ、不登校などの課題に対応していくために、教員に加え、心理士、学校に配置している「心のふれあい相談員」、スクールカウンセラーや学校教育相談員による相談活動を充実させていく。また、「いじめ問題対策委員会」を活用し、いじめや不登校の未然防止・早期対応を進め、児童生徒の健やかな成長を支える。

○新型コロナウイルス感染症の感染対策を講じながら、創意工夫を凝らし、可能な限りで地域人材の協力を得られるように、家庭・地域に、理解と協力を求める。

令和3年度本市の体力テスト結果を所沢市児童生徒体力向上推進委員会等による分析を活用し、市内中学校への情報提供、指導助言を行う。

SDGsへの貢献

1 貧困をなくそう	レ	10 人や国の不平等をなくそう
2 飢餓をゼロに		11 住み続けられるまちづくりを
レ 3 すべての人に健康と福祉を		12 つくる責任 つかう責任
レ 4 質の高い教育をみんなに		13 気候変動に具体的な対策を
5 ジェンダー平等を実現しよう		14 海の豊かさを守ろう
レ 6 安全な水とトイレを世界中に		15 陸の豊かさを守ろう
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	レ	16 平和と公正をすべての人に
8 働きがいも経済成長も		17 パートナリシップで目標を達成しよう
9 産業と技術革新の基盤を作ろう		

評価日	R4.7.28	記入者職氏名	経営企画部次長 柳田 晃芳 教育総務部次長 皆川 博幸 学校教育部次長 中田 利明 学校教育部教育センター担当参事 中村 啓
-----	---------	--------	---